

# 姉妹都市ニューポート訪問滞在記

7月11日～19日の間、下田市代表团としてアメリカニューポート市等を訪問し、異国の地で経験した思い、交わした友情。一生の思い出となったであろう中学生達の記録です。



## 下田中学校 進士 侑莉愛

私は、英語が得意ではないため、出発の日からとても不安でした。ですが、ホームステイ先の家族の方々は、ゆっくり話しかけてくれたり、内容を簡単に伝えてくれたりと、工夫して説明してくれました。だから、私が出発の日から抱えていた不安な気持ちは、いつの間にか消えていきました。ホームステイ先の家族の方々の優しさがあったることだと感じました。

ニューポートでは色々な場所へ連れて行ってもらいましたが、その中でも印象に残っているのは、ポートからニューポートを見たことです。海から眺めるまちは落ち着いた大人っぽい雰囲気、賑やかで楽しいという、陸での印象と全然違うことに驚きました。ワークシヨップでは、幅広い年代の方々がたくさん来て

くれました。凧作りが終わった後、誰もが最後にお礼を言ってくれたので、とても嬉しかったんです。そして、日本の昔の遊びをたくさんの方々が知ってくれて良かったです。

ニューポートでは、一人一人が優しく、温かい町だと思いました。私たちが優しく迎えてくれたことに本当に感謝しています。

今回、一日目に行ったボストンや最終日に行ったニューヨークでも、色々な貴重な体験をさせてもらいました。ハリスのお墓参りに行ったとき、大きく育った桜の木がありました。私は、その桜が今までの歴史を表していると思い、感動しました。ペリーの墓も多くの人に親しまれ、この二人がいたから今回の貴重な体験ができたのだと感じました。今回の体験をもとに、これからの下田がより良くなるよう、今から考えていきたいです。

## 下田東中学校 佐々木 拓海

ホテルで初めてホストファミリーに会ったときは、何を話せばよいかわからず本当に緊張しました。ニューポートでは、式典に出たりワークシヨップに参加したりしましたが、ワークシヨップでは地元の子どもたちや大人のひとと一緒に凧作りに挑戦しました。最初は戸惑いましたが、ニューポートの人はとても温かく、少しずつ自分からジェスチャーを交えて笑顔で話すことができるようになりました。

ポートに乗り、海からニューポートを見たことも忘れられません。ニューポートブリッジがとてもきれいで、どこか下田に似ている風景だと思いました。初日はどうなるか不安でしたが、一日一日を過ごしていくうちに会話ができるようになり、とても楽しく過ごすごうことができました。

## 稲生沢中学校 長池 未早

ニューヨークでは、ハリスのお墓に行き、その後ニューヨーク市大学でハリスについて学びました。資料がとてもたくさんあり、今まで知らなかったハリスについてたくさん学ぶことができました。僕は、今回の体験を通して、アメリカの文化を自分の体で体験することができました。この経験を忘れず、今後の学校生活や自分の将来に生かしていきたいと思っています。

私は初めて外国に行ったので、全てが貴重な体験になりました。はじめは不安もありましたが、行ってみるとすごく楽しく充実していました。ニューポート訪問三日目は、凧作りをしました。私は英語が上手に話せないので心配でしたが、私が慌てたり、教えるのを間違えたりしてまったときにも笑顔で応えて



ニューポートでは始球式にも参加しました



ペリー提督の墓前祭にて



ニューヨーク市大学でお勉強



上手く伝わったかな、和凧作り

## 稲梓中学校 田中 榛

とは大事なことだと改めて思いました。私は、この体験を通して、お互いが交流を深めることで文化を共有したり、今まで知らなかった知識を知ったり知ってもらったりする良い機会になるということを学ぶことができました。この貴重な体験を、これからの生活に生かしていきたいです。

僕は、アメリカに行く前はとても緊張していました。特にホームステイをすることに凄く緊張しました。

アメリカに着くと、やはり日本語が全く通じず、過ごす中で不安になりましたが、アメリカの人は初めて会った僕たちにも優しく接してくれて、ジェスチャーなどでコミュニケーションを取ってくれるなどしてくれたため、その不安はすぐになくなりました。

ニューポートでのホームステイでは、初日は緊張して、あまりホストファミリーと話をする事ができませんでしたが、しかし、ホストファミリーはみんな優しく、完全な英語でなくても分かるうとしてくれたり、スマホのアプリで

日本語にしてくれたり、関わり合うことができました。海に行ったり、黒船祭に行ったり、ホストファミリーが仕事をしているカフェに行ったりと、とても充実した日々を送ることができました。

当初は行くのがとても心配だったホームステイも、最終日にはもつとニューポートにいたいと思うほど良い場所でした。良い人たちでした。

## 引率教諭 土屋 大祐

ニューポートを発つ際、手書きのメッセージを手渡す中学生的な姿がありました。「私に？」とメッセージを受け取るホストファミリーの嬉しそうな表情が忘れられません。こうした心のつながりこそ、何事にも代えがたい宝物だと思います。きつと、四名の中学生は、国を超えた心のつながり、人と人とのつながりが

くれ、理解しようとしてくれたので、それからは落ち着いて話せるようになりました。何となく聞き取れる英語もあり、少しでも分かる英語を聞くとか嬉しくなりました。ニューポートでは歓迎パーティにも参加しました。日本では体験できないようなものになりまして。ニューポートの人たちはみんな優しく面白い人たちで、毎日がとても楽しく充実していました。

ニューヨークではハリスのお墓やニューヨーク市大学を訪問しました。ニューヨーク市大学では、ハリスの歴史について知ることができました。最終日には、ミュージカルも体験しました。英語はあまり分かりませんが、オーケストラで歌う歌は迫力があってとても格好良かったです。7日間の訪問を通して、色々なことで交流を深めるこ

学んだに違いありません。ホームステイをした中学生はもちろん、すべての訪問団員が感じたのが、ニューポートの皆さんのホスピタリティでしょう。相手を大切に思い、受け入れ、接すること。日本のおもてなしの心に通じるこのホスピタリティは、ますます多様化する世界の国々や人々をつなぐのだと思います。十年後、二十年後の社会を担う中学生は、言語や文化の面でも貴重な体験をしました。四人は、すべて英語の中で言葉の壁に戸惑いながらも、自分が知っている単語やフレーズ、身振り手振りを駆使して、ニューポートの皆さんに気持ちを伝え、思いを受け止めていきました。もつと話せるようになりたい。そんな思いが膨らんだことでしょう。こうして、対話を通して互いに理解しようとする姿勢は、下田市が目指す「未来の人づくり」につながるものだと思います。最後に、中学生を受け入れてくださったホストファミリーをはじめとした、スタッフの皆さまに感謝申し上げます。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。